



閣甲第二七七號

昭和十二年十一月八日

裁可昭和十二年十一月九日施行

昭十二年十一月九日官報公布

内閣總理大臣及

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

磯 野 興

和 五 友

木 廣 正

道 加 由

別紙國家總動員實施ニ関スル
内閣訓令案

日本標準規格四列(十一行全)(木村納)

右閣議ニ供ス

A large empty rectangular box with a grid-like border, likely intended for handwritten notes or a formal record.

○内閣訓令第 四 號

各 官 廳

國家總動員實施ニ關スル件

惟フニ今次事變ハ、其ノ淵源スル所極メテ遠ク且深シ。其ノ禍根ヲ芟除シ、以テ帝國不動ノ國是タル東亞永遠ノ平和ノ確立ヲ期スルガ爲ニハ、外ニ膺懲ノ軍ヲ進メ、彼ノ暴戾ナル軍閥政權ノ徹底的反省ヲ促ガスト共ニ、内ニ在リテハ國家總動員ノ體制ヲ整備シ、軍需ノ充足及國民生活ノ確保ヲ圖リ、以テ舉國其ノ成果ヲ收ムルニ全力ヲ注ガザルベカラズ。即チ愈々國民精神ヲ昂揚シテ國力發揮ノ源泉ヲ振作スルト共ニ、生産力ノ擴充、需

内

閣

給ノ調節、配給ノ適正、國際收支ノ均衡ヲ圖リ、依テ以テ綜合國力ノ擴充運用ニ遺算ナキヲ期スルハ、刻下焦眉ノ急務タリ。政府ガ、今回企畫廳及資源局ヲ統合シテ企畫院ヲ設置シ、國家總動員ノ中樞機關タラシメ以テ當面ノ事變ニ對處スルト共ニ、事變後ニ於ケル國力ノ飛躍増進ニ備ヘントスル所以ノモノ亦一ニ茲ニ存ス。局ニ當ル者、克ク此ノ趣旨ヲ體シ、各々其ノ職司ニ從ヒ和衷協力、職務ニ精勵シテ國家總動員業務ノ完璧ヲ期スベシ。

昭和十二年十一月十日

內閣總理大臣

12.11.8
務庶

企畫院上申第二號

昭和十二年十一月八日

企畫院總裁

瀧

正

雄



內閣總理大臣 公爵

近

衛

文

磨

殿

國家總動員實施ニ關スル內閣訓令ノ件

國家總動員實施ニ關スル件各官廳ニ對シ別紙ノ通訓令相成様致度此段及上申候



閣甲二六七

○内閣訓令第

號

國家總動員實施ニ關スル件

各官廳

惟フニ今次事變ハ、其ノ淵源スル所極メテ遠ク且深シ。其ノ禍根ヲ芟除シ、以テ帝國不動ノ國是タル東亞永遠ノ平和ノ確立ヲ期スルガ爲ニハ、外ニ膺懲ノ軍ヲ進メ、彼ノ暴戾ナル軍閥政權ノ徹底的反省ヲ促ガスト共ニ、内ニ在リテハ國家總動員ノ體制ヲ整備シ、軍需ノ充足及國民生活ノ確保ヲ圖リ、以テ舉國其ノ成果ヲ收ムルニ全力ヲ注ガザルベカラズ。即チ愈々國民精神ヲ昂揚シテ國力發揮ノ源泉ヲ振作スルト共ニ、生産力ノ擴充、需給ノ調節、配給ノ適正、國際收支ノ均衡ヲ圖リ、

依テ以テ綜合國力ノ擴充運用ニ遺算ナキヲ期スルハ、刻下焦眉ノ急務
タリ。

政府ガ、今回企畫廳及資源局ヲ統合シテ企畫院ヲ設置シ、國家總動員
ノ中樞機關タラシメ以テ當面ノ事變ニ對處スルト共ニ、事變後ニ於ケ
ル國力ノ飛躍増進ニ備ヘントスル所以ノモノ亦一ニ茲ニ存ス。局ニ當
ル者、克ク此ノ趣旨ヲ體シ、各々其ノ職司ニ從ヒ和衷協力、職務ニ精
勵シテ國家總動員業務ノ完遂ヲ期スベシ。

年 月 日

內閣總理大臣

拓甲二三七

上上
上上
四一

昭和十二年十一月二十九日

內閣書記官長

內閣書記官

內閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

內務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙大藏拓務兩大臣請議明治四十二年
勅令第百二十二號改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

三五

長 司